

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信

12 (通巻16号)

平成15年9月30日発行

【目次】

- こんなのきました ー参考調査課によせられたレファレンスー ①⑦
キーワード探しが決め手です ほか <新聞にまつわる話あれこれ> …… 1
- こんなのあります ーいちおしレファレンス・ブッカー ⑧
法律の調べ物は、これで良い・これが良い! …………… 2
- 市町村のみなさんからの発信 ⑦
うれし・たのし・大好き=利用者の笑顔 由仁町ゆめつく館 佐々木聡美氏… 3
- Librarian's Box (ししょばこ) ⑤
「レファレンスあれこれ」記事名一覧 …………… 4
- 読んでくれましたか? 『北海道立図書館所蔵新聞目録』 …………… 6
- 課員のつぶやき ー日々の業務からの短信ー ⑧
現物が存在するということ …………… 7
- 今年も実習生がやって来ました …………… 8
- 北海道図書館大会でミニ資料展 …………… 9
- こんなの行きました …………… 9
- News …………… 10
 - ①『北海道雑誌新聞総合目録』増補改訂版の作成準備を開始
 - ②各講習会・研究会に参加
 - ③「レファレンス体験研修」今年も好調・出前研修も!
 - ④市町村支援課事業に当課職員参加
 - ⑤札幌市図書館職員(非常勤職員図書館専門員)派遣研修で当館職員と意見交換
 - ⑥道民ホール展(11月4日~7日)準備快調
- 編集後記 …………… 11



北海道立図書館

こんなのきました —参考調査課によせられたレファレンス— ⑰

キーワード探しが決め手です ほか <新聞にまつわる話あれこれ>

「去年か一昨年 of 北海道新聞（以下「道新」）に、ハウス野菜の発がん性のデータが載っていたはずだが、その頁のコピーがほしい。ニトロソアミン、硝酸塩などの数値がでている」。ある町の図書室からの調査依頼です。

まず『日経テレコン』（商用DB）で、道新以外の全国紙も対象にし、年数の範囲も過去 5 年と広めに設定し、キーワードは「**ハウス野菜**」「**発がん（ガン）**」「**ニトロソアミン**」「**硝酸塩**」を色々組み合わせで検索してみました。それらしい記事は出てきません。次に YAHOO!JAPAN や Google などの検索エンジンで前述のキーワードで探したところ、雑誌『アエラ』の'98 年の号に、ビニールハウスの環境ホルモンによる発がん性の記事が出ていることがわかりました。しかし掲載時期が古く内容も少し違うので、今度は道新の縮刷版（記事索引）をとりあえず 2 年分見ることになりました。ところがそれでも「**ハウス野菜**」に関する記事は見当たりません。

もう一度検索エンジンで、先程は関係ないと思い読み飛ばしていたところまで細かく見ていくと、「施設で促成栽培される野菜には窒素肥料から派生する硝酸塩が多く含まれているので健康を害する」というようなことが書いてあるものを見つけたのです。「**ハウス野菜**」では出てこないはず。そこで再度『日経テレコン』で「野菜」「硝酸塩」だけで検索してみたところ、いくつか出てきた中に「硝酸塩は大丈夫？ *「葉野菜食べよう」と言うけど… *促成栽培影響 *成人平均で許容・・・」（道新朝刊 2001.2.15）という見出しがあったのです!!（実は縮刷版で探していた時にも見ていた）念のため、原紙にあたると確かにこの記事で間違いありませんでした。

このようなDBは、従来の「雑誌記事索引」等に見られる主題や件名によるくくりではなく、検索語だけが決め手となります。キーワード決定の重要さと、自分勝手な思い込みで情報を切り捨ててはいけないということを痛感した調査でした。

もうひとつは、「〇月×日の道新の朝刊の<道央版>に載っている、北海道対がん協会による子宮がん検診の記事のコピーがほしい」という調査依頼で、<道南版>が配られている地方の個人の方からです。

新聞の版が地方によって違うのはご承知かと思いますが、とりあえず江別市内に配られている<札幌近郊版>を 1 頁目から見ていったところ、17 頁に記事があり、その頁は版表示のない全道共通の頁。簡単に一件落着・・・と思っていたら、数日後にまた電話があり、こちらから送付した記事ではないとのこと。そんなばかな!?! と思いつつも再度同日の原紙を見ていくと、なんと 26 頁（第 16 版）にも同協会によるがん検診の別の記事が出ているではありませんか！ ちなみに『日経テレコン』情報では<全道版>となっていたものの、電話で利用者に再確認したところ、やはり<道南版>（第 14 版）には載っていない記事とのことでした。こちらは「新聞は隅から隅まで読まなくては・・・！」と実感した調査でした。

こんなのあります ―いちおしレファレンス・ブッカー ⑧

法律のしらべものは、これで良い・これが良い！

本誌前号掲載の「法令議会資料・官庁資料研修〔於国立国会図書館〕参加報告」文末で、《理解、活用するためのお勧め本》を挙げました。そのつながりで、『リーガル・リサーチ』（いしかわまりこ・ほか著 日本評論社 2003.3 ISBN4-535-51283-3 ¥1400）を“いちおし”に再掲します。

前扉には、**〈めざす資料は いつのもので どこにあり だれが どのようにして 何のために 作ったのか〉**。そうです！ レファレンスツールとしては、かなりの好感度ではありませんか？ 頁数 372p のペーパーバックは、価格も手頃で強い味方になりそうです。

対象となる資料は、図書・雑誌・新聞、そしてデジタル資料です。4部構成で、**第1部はリサーチの方法と手順**についてですが、その中で図書館の資料は内容による分類に基づいた請求記号順に並べられている、同分類でありながら、資料を複数の場所に配架していることがある などの記事に目が行きました。

第2部（法令）では、『官報』『法令全書』などおなじみの基本資料、数多のサイトを紹介。条文の探し方、法令制定や条約承認の過程を調べる資料、旧法もカバーしています。当課では、法令の中の〈告示〉はまだしも、解答に至らないことが多いのは〈訓令〉や〈通達〉などの下位法令です。“各省庁から発せられており、それらを網羅する印刷媒体はない”ですが、この部の前段で ①法令の種類 ②公布と施行 などのような基礎知識がきちんと説明されており、上位・下位・横の関係もよく分かります。

判例（第3部）の探し方は、〈何をどこまで知りたいか、判例を特定する情報の何が分かっているか〉によって大きく違ってくるので、レファレンスの現場ではなかなかの難敵です。

〈探せない判決文〉は“当該裁判所へ。又は、掲載新聞社→記者→担当弁護士のルート”も示されています（判決文は、事件確定後約 10 年は保存）が、判例集・判例雑誌・判例 DB に未記載であることの判断（又は、自館資料を使い切っているかの見極め）もあり、対応が揺れるところです（先の国会図書館の研修では、“情報公開”がらみでの請求か？ とも聞きました）。

第4部（文献を調べる）では、調べ方：資料、人物や団体や白書・統計書へのアプローチ、入手方法：書店・インターネット・様々な目録や出版情報、そして図書館（公共・大学・国立国会・専門）の活用法が具体的。

巻末付録の事項目次（*巻頭の目次を補完し、本文を捕捉できる）も、使いやすそうです。本書は、法学学習の参考書です。しかし、機関の利用法をはじめ、DB やネットスキルのほか論文の記載ルールなど、各分野共通のノウハウが明快に記されています。

市町村のみなさんからの発信 ⑦

うれし・たのし・大好き = 利用者の笑顔 <由仁町ゆめつく館> 佐々木聡美氏

参考調査課の加藤さんから原稿依頼の電話が来たのは8月。ちょうど、夏休みの子どもたちが、館内のあちこちで模造紙を広げ、自由研究と格闘している時期である。電話が来るまでは、返却本を棚に戻しながら子どもたちに「頑張ってるねー」などと気軽に声をかけていた私だが、受話器を置いた途端に夏休みの宿題を抱えた子どもたちの気持ちが痛いほどわかるようになった。

レファレンスに関することならば何でもいいというので、今回はレファレンスという仕事に対する気持ちを率直に書いてみようと思う。図書館での仕事はたくさんあるが、実は、私はレファレンスの仕事が結構好きである。実力は全く伴っていないにせよ、利用者が求める事柄が載った資料を探し、手渡すことが出来た時には本当にうれしい。

図書館員ならばどなたにも、心に残るレファレンスがあるに違いない。数年前、20代くらいの青年が「小さい頃に見た絵本がずーっと忘れられなくて、もう一度見たいんだけど…」とカウンターにやって来た。聞くと、その絵本は『ブレーメンの音楽隊』で、さし絵は絵ではなく、キラキラ光るクリスタルの動物が、とても綺麗な本らしい。黄色っぽい表紙で、正方形くらいの大きさの本。インターネットなどで、あれこれ探してみるが、それらしき資料はあっても該当資料かどうかは、実際に利用者に見てもらうまではわからない。そこで、道立参考調査課に依頼。いろいろ手を尽くしてもらい、大阪国際児童文学館と国際子ども図書館を紹介してもらった。大阪国際児童文学館で調べてもらった本は、まさに利用者の探していた本だった。再び、道立の協力を得て(※)青年に手渡すことが出来たのだが、その喜んで本を見ていた姿は今も忘れられない。

また、先日は鳥取県の図書館から「由仁町の『星霜八十年史』という部落史を借りたい」と電話があった。「セイソウハチジュウネンシ」。検索しても所蔵なし。郷土資料なのになんて…。と落ち込んでいた矢先、たまたま本を借りに来ていた元役場職員が「役場の書庫にないかい」と助言をくれた。休日の役場書庫で「見つけた!!」。でも、この背表紙見た事がある。うちにこの本は絶対ある。検索して出てこなかったという事は、もしやヨミの入力に間違いがあるのでは…。図書館に電話をかけて確かめてみると、哀しい事に、なんと「ホシシモハチジュウネンシ」と入力されていたのだ。 (開館以来、ずっとらしい)こちらの本も無事鳥取に届ける事が出来たのだが、正確な入力の大切さもさることながら、コンピュータに頼らなくても資料をきちんと覚えていることの重要性を実感した。「“ほしいも”じゃないんだからねえ…」と今は笑って話せるけれど…。

今まで経験したどのレファレンスにも共通しているのは、多くの人の協力と笑顔、それと1冊の本を探し求めるあらゆる人(利用者も図書館員も)の熱意だった。私がレファレンスの仕事を好きな理由はこれなのだろうと思う。そして、さまざまな人の協力を得て、利用者に資料を手渡せた後の充実感。こんな清々しい気持ちをこれから何度味わうことができるだろうか。

加藤さんからの宿題はなんとか終わりそうだけれど、図書館員として未熟な私にはまだまだ課題が残っているようだ。道立図書館・道内図書館の皆様、これからもどうぞよろしくお願いいたします!

※ 文中に「再び、道立の協力を得て…」とあるのは、実は、当課での調査もれ故に生じたことで、佐々木さんにはご面倒をかけたのでした。
“今は笑って話せるけれど道立版”のおそまつ! <後のフォローが可能で、あの時はほっとしました。(み)

<連載>

Librarian's Box(ししょばこ) ⑤

「レファレンスあれこれ」記事名一覧

当館のレファレンス事例紹介には2つあります。まず当『Do-Re』連載の「こんなのできました」は、典型的な事例や何度も来そうなものを採り上げており、特異な例や際立って複雑・困難だったものは除外しています。

もうひとつは『北海道立図書館報』連載の「レファレンスあれこれ」。読んでいただけますか？ こちらは「珍問奇答」も交えつつ、「読んで面白く役に立つ」をコンセプトに、所蔵資料紹介や調査のポイントをお知らせしています。

私たちも過去の事例に助けられることが、ままあります。そこで今回は、これまでの「レファレンスあれこれ」の記事名を一覧にしました。

【一般資料、地域資料別。編年体で館報の掲載箇所を明示】

<一般資料関係>

| 記 事 名 | 号 | 頁 | 刊行年月 |
|--|-----|---|---------|
| 「オーリング」の言葉の意味と関連資料 | 147 | 3 | 1995.06 |
| 『元興寺伽藍縁起』（がんごうじがらんえんぎ）という本はあるか | | | |
| 学校の儀式で行われる「修礼」の起源・由来 | 149 | 4 | 1995.12 |
| 軍歌「戦友」の歌詞全文 | | | |
| 明治末から大正にかけて出版された月刊『子どものくに』の表紙と内容のコピーがほしい | 151 | 3 | 1996.06 |
| 日本女子大学講義録？の正しい書名 | | | |
| 戦後から現在（平成8年3月）までの総理大臣名の一覧 | | | |
| 帯刀と書いて何と読むか | 153 | 6 | 1996.12 |
| 鉄道の機関車の運転の仕方についての詳しい資料 | | | |
| 三味線の弾き方について書かれた本 | | | |
| 電卓のキーは、なぜあのような配列なのか | 155 | 4 | 1997.06 |
| 「3タコ」とはどういう意味か | | | |
| 「おはようございます」は何時から何時までの間に使うべき言葉か | | | |
| 明治16年、森鷗外、伊藤博文、福沢諭吉のいずれかが、「商人に告げるの文」という広告を新聞に出したそうだが、それは誰か | 157 | 4 | 1998.01 |
| 万歳の意味およびその起源と三唱する訳、また、手のひらを見せないとする説があるが本当か | | | |
| 発語（話）困難の赤ちゃん（サイレント・ベビー）について記された資料 | 159 | 4 | 1998.06 |
| 皇寿（111歳のお祝い）、茶寿（108歳のお祝い）について、その読みと定義 | | | |
| 外国映画「生きてこそ」の本はあるか | | | |
| 「タイタニック号事件」を予言した小説 | 161 | 4 | 1998.12 |
| 都道府県立図書館および政令指定都市立図書館参考業務担当者との懇談会－協力レファレンス | | | |
| コンピュータの「西暦2000年問題」は、いつ・だれによって言い出されたものか | 163 | 4 | 1999.06 |
| 2000年からの国民の祝日の改正とは、どのようなものか | | | |
| 『教育心理学フォーラム・レポート』に掲載された論文を探している。所蔵しているか | 165 | 4 | 1999.12 |

| | | | |
|--|-----|-----|---------|
| 「電算化時代を迎えた図書館～浦安市立図書館にみるシステム化の現状と将来」(竹内紀吉)からの引用文が『図書館活動論<新図書館学教育資料集成 3>』に記載されている。この文章の全文は、どのような形の資料で存在するのか | 165 | 5 | 1999.12 |
| 全国の「ロウソク岩」と名の付く、名勝、奇岩が存在する場所 | 168 | 6 | 2000.12 |
| 競泳競技の国際ルールが改正されている。その内容を知りたい | | | |
| おがくずで絵を描く方法 | | | |
| 日露戦争終結後の(1)「凱旋上奏文」(2)「連合艦隊解散の辞」の全文 | | 7 | |
| 「水師営の会見」の通訳の名前 | 170 | 7 | 2001.07 |
| 「やってみせ 言って聞かせて させてみて ほめてやらねば 人は動かじ」という言葉は誰が言ったものか、出典は何か | | | |
| 「水五訓」とは何か。その全文と出典を知りたい | | 8 | |
| 『週刊小説』の平成4(1992)年9月25日号は、所蔵しているか | 172 | 6 | 2002.03 |
| 『週刊朝日』1969年3月～1972年12月発行分は、所蔵しているか | | 6～7 | |
| 『セルフケア行動開始の援助』(石井均著)は所蔵しているか | | 7 | |
| 『おかえりなさい』という本の著者と出版社 | 174 | 6 | 2002.12 |
| 2001年はボランティア国際年であったが、今年も何かの国際年に指定されているか。また毎年行われているのか | | 6～7 | |
| ある外国語論文を探している。所蔵館を知りたい。 | 176 | 6 | 2003.07 |
| 中国の雑誌『戦略と管理』(2002年12月)の所蔵館 | | | |
| 大豆を洗うとあぶくがでるが、「シャボン」の語源と関係あるか | | 6～7 | |

<地域資料関係>

| 記 事 名 | 号 | 頁 | 刊行年月 |
|---|-----|-----|---------|
| 『断熱住宅の暖房設備の選び方』(鈴木憲三 北方圏住宅研究会)を所蔵しているか | 148 | 5 | 1995.12 |
| 吉田十四雄の『りんきの村』を所蔵しているか | | | |
| 『寛文9年における蝦夷反乱の一面』(藤村久和著)を所蔵しているか | 150 | 3 | 1996.03 |
| 釧路湿原に関する資料には、どのようなものがあるか | | | |
| アイヌの祭儀の一つで、ヒシの実を採る時に行われる儀式の様子を写したフィルムはあるか | 152 | 6 | 1996.09 |
| 松浦武四郎がつけた「北海道」の命名のきっかけとなった場所と、その根拠となる資料 | | | |
| 北海道で最古の校歌はどこのものか | | 7 | |
| 食の語源三題 「チャンチャン焼き」「ザンギ」「トバ」 | 154 | 4～5 | 1997.03 |
| 北海道で最初に鯨漁を行った馬之助の事跡がわかる資料 | 156 | 4 | 1997.11 |
| ジンギスカン(鍋)の名称は誰が考え出したのか | | | |
| クラーク博士が言った「Boys, be ambitious」に続く言葉 | | 5 | |
| 「三平汁」の由来 | 158 | 4 | 1998.03 |
| 「ヤリキレナイ川」のアイヌ語の由来 | | 4～5 | |
| 「大雪山」の正しい読み方。また、「大雪山系」「富良野大雪リゾート」というような時は、読み方は変化するか | 160 | 4～5 | 1998.09 |
| 明治21年から23年に、釧路から網走までを受刑者によって開削した釧路道路について | 162 | 4～5 | 1999.03 |
| 『吉田巖日記』の中に出てくる『蝦夷境界図考』(明治39年頃刊行らしい)とはどういう資料か | 164 | 4 | 1999.10 |
| エゾキスミレの咲く Mt. Shiga は、日高山脈のどこにあるのか | | | |

| | | | |
|---|-----|-----|---------|
| 北海道の銭湯に関する資料にどんなものがあるか | 164 | 5 | 1999.10 |
| 北海道の地名「冬窓床」の正しい読み方 | 166 | 4 | 2000.03 |
| 昭和初期、宗谷線オサシマ駅長だったA氏は、何代目の駅長か | | | |
| 現在までに開通した道内の高速道路の、区間ごとの開通年の一覧 | | 5 | |
| 北海道の七夕が本州とはひと月遅れ（8月7日）なのは何故か | 167 | 6 | 2000.07 |
| 明治45年、白瀬中尉の南極探検に同行した樺太アイヌ花森信吉氏の、探検後の消息 | | 6~7 | |
| 『東方学会報 17』（1969）所収の「北海道の先史文化」という論文を見たい | | 7 | |
| 昭和59年から平成2年までの旭川竜谷高校、函館有斗高校の春季北海道高等学校野球大会、全国高等学校野球選手権大会、秋季北海道野球選手権大会のメンバー表、試合結果を地方新聞から複写したい | 169 | 6 | 2001.03 |
| 北海道初の女性校長誕生に関する記事と、その人物についての資料 | | 6~7 | |
| 長田幹彦著の『続金色夜叉』について、なぜ著者は、北海道置戸町を舞台に、尾崎紅葉の『金色夜叉』の続編を書いたのか | 171 | 6 | 2001.12 |
| 『北鳴学校紀事』（明治28）に「布施現之助」という生徒が“生徒の証言”として書いた中に、新渡戸博士の倫理として「コゝダナー」という言葉が出てくる。その意味は | | | |
| 与謝野晶子が「ミホトケノ」で始まる歌を洞爺湖で残したというのが、道立図書館所蔵の『北海遊艸（ホッカユウソウ）』に載っているか | 173 | 6 | 2002.07 |
| 昭和30年に北海道教育委員会から刊行された『アイヌの古式舞踊 釧路地方』という更科源蔵氏が書いた本はあるか | | 7 | |
| 「カバノアナタケ」の効果、服用方法などがわかる資料 | 175 | 4 | 2003.03 |
| 道東の地名「東梅」の由来 | | 4~5 | |
| 「エゾノヒツジグサ」に関する写真集・エッセイなど | | 5 | |

* 記事名は、字数の関係で要約しています

読んでくれましたか？

北海道立図書館所蔵新聞目録

8月上旬にお送りした『北海道立図書館所蔵新聞目録』はご覧いただけただでしょうか。「刊行にあたって」でもふれましたが、およそ30年ぶりの増補改訂ということで当課員も気合を入れて作った目録となっています。当館の所蔵状況がわかる本文は五十音順とし、さらに主題別索引で分野別にもわかるようにしてあります。そして付録では、各紙の重要紙面や新聞集成などの資料を紹介している「拾遺編」、新聞記事を探す手掛かりとなる総目次や索引などを集めた「索引類」ほか内容を充実しております。ぜひ、新聞の調査にご活用ください。

巻末に掲載「主要新聞系統図」、当館では、別個ラミネートしてカウンターに置いており、日々の業務で活躍中。編集者の苦勞が報われます。〈On〉

課員のつばやき 一日々の業務からの短信― ⑧

《 現物が存在すること 》

困った時には、「現物」があることが本当にありがたい。それは、その内容から得られる情報が有効なこともあるが、それ以外にも、現物は時として思いがけない Gift を与えてくれたりするからだ。例えば…。

材料は、①随筆であること②タイトル③著者名。まあ、総合目録かダメでもネットでどうにか拾えそうな資料だと高をくくる。最近はネット情報を糸口とした書誌確定は日常茶飯事(もちろん、ウソつき情報!もあるが)。ところが、今回はアウト。サッパリだ。著者はある程度の書き手だったので当館にも何冊か著書がある。こうなったら、現物にアタックだ。同じエッセイのほうが良いだろうから…分類 914.6 を1冊。

短編エッセイ集ね。著者紹介を見る。うんうん、評論家かな? まだ何作かは書いていそう。初出一覧がある。雑誌掲載稿を集めているんだあ…となると(ピン!)そうか! 探しているエッセイも雑誌から探せるかも。――(気づくの遅いぞ)――国会雑誌記事検索をする。ほら、あるある!! それも、大御所雑誌。当館所蔵もあり。あな、目出度や。



ネットの海は広大であらゆる情報が溢れている。それに比べて私の網はあまりにも小さい。しかし、どんな大きな網をもってしても掬い取れないものもある。鍵(キー)を握っているのは、インスピレーション・ひらめき。導いてくれるのは、“ゲンブツ”の力の一つなんじゃないのかな?!

“ゲンブツ”が多ければ多いほど、インスピレーションの素はあちらこちらに…。



さて、もう一息。雑誌の該当号は探し出したものの「館内利用」の制限がある。単行本がないかしら? 「雑誌連載→単行本化」は十分考えられること。連載終了後1～2年以内のこの著者のエッセイをターゲットング。すると…発見しました単行本! ただし、当館未所蔵(小林)。所蔵館を紹介させていただきました。

“ゲンブツ”の力に助けられ、情報の海から望みのものを捕らえたなら、ニッコリ笑って利用者に「現物」を手渡したいもの。しかし、それが中々に難しい。いつも、〈現物が存在すること〉を心から望むのである。

今年も実習生がやって来ました

海道武蔵女子短期大学生 7名が当館での実習に臨み、全7日間の内、8月8・12日の2日間を参考調査課で、下記のスケジュールで行いました。

- 課業務内容の説明
- ビデオ[ズッコケ三人組の図書館で調べよう] 上映(20分)に学ぶ
- レファレンス演習 閲覧室の参考図書を使用しての演習問題アタック
- 過去のレファレンス記録票をNDC10区分にする 過去の記録票から学ぶ
- ★★レファレンスをPRしよう レファレンス・デスクのサインと、リーフレット作成
- レファレンス演習 演習結果発表、資料の評価
- ★レファレンス・インタビュー演習
- ★モノとしての資料提供を保証するために 酸性化問題と修理(講義及び実習)

★は今年度初の試みです。なかなか好評でした。レファレンスのPR物の作成(★★)では、若いセンスで、時間を超過してまで熱心に取り組んでいました。七夕風(?)に、成果物を閲覧室に展示してみました。



北海道図書館大会でミニ資料展

「図書館サービスの飛躍をめざして」のテーマで開催された北海道図書館大会(主催：北図振 9月11～12日)。基調講演は、東京大学教授根本彰氏による「図書館サービスを支える知的基盤：教育、研修、そして資格認定を考える」で、司書の専門性について言及された内容でした。

今回の講演および分科会のテーマに関連した当館所蔵資料のミニ展示を、メイン会場入り口で行いました。当課を中心とした初の試みでした。「サービス力^{りょく}が図書館を変える!」と題し、「研修・職員」「サービスアップ」「経営」「評価と指標」& 「書店の書架から^{まね}学ぶ」にグルーピングした資料、そして『情報基盤としての図書館』(勁草書房 2002)をはじめとする根本先生の著作コーナーも設けました。

参加された皆さん、ご覧いただけましたか?



行

こんなの きました

～中頓別町「1日図書館フェスティバル」(市町村支援課共催事業)～

8月7日、当課新人のIが大型絵本の読み聞かせの担当としてBMに同乗しました。

5月末の当課全員による「読み聞かせミニ勉強会」に始まり、2ヶ月あまりみっちり練習を重ね、そして迎えたフェスティバルの前日。ピーカンの天気恵まれ、BM「あけぼの号」に乗り込み、人生最北(!)の旅へとはりきって出かけたのですが…。

当日は何やらあやしい雲行き。午前はこども館、午後は小学校の、お日様の下での開催予定でしたが、どちらも準備をしだすと雨が降り、撤収して屋根の下でやる準備が終わると晴れるという始末。雨女かしらと嘆きつつも、それでも多くの方がフェスティバル会場に足を運んでくださり、緊張の中での読み聞かせの難しさや、子どもたちとふれあう楽しさを改めて学び、個人的には大収穫の館外奉仕体験(図書館サービスは幅広いですね…)を終えたのでした。

(図書室をはじめ中頓別町の皆様方には大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。)

NEWS

『北海道雑誌新聞総合目録』増補改訂版の作成準備を開始

増補改訂版の作成準備として、町村立図書館あてに参加の可否を含めたアンケート調査を行いました。協力館には、10月上旬頃に調査用紙の送付を予定しています。報告いただいたデータでインターネット版目録の順次更新を行います。

各講習会・研究会に参加

- a 平成15年度北海道・東北地区著作権セミナー（主催：文化庁 7月10日～11日）：当課の桑原が参加。「著作権制度の概要について」「著作権制度と著作権の実務」について、平成16年1月1日に予定されている改正情報も含めた説明を受けました。
- b 生涯学習関連施設運営専門研修講座（主催：北海道立生涯学習推進センター 8月20日～22日）：当課の桑原が参加。生涯学習施設関係職員が対象で、それぞれの施設での現状や問題点について改めて考えた研修でした。

「レファレンス体験研修」今年も好調・出前研修も！

9月29日には根室管内図書館協議会研修会（於別海）で当課の大塚が「出張レファレンス研修」を行いました。研修内容は、今年2月に当館で行った《インターネット活用初級編》をベースに実技を交えた1日コースでした。（21名参加）

市町村支援課事業に当課職員参加

- a 一日図書館フェスティバル（於中頓別町 8月7日）
青空図書館に当館の移動図書館車あけぼの号が訪問し事業に協力する一日図書館フェスティバルに当課の伊藤が同乗し、初めての大型絵本の読み聞かせに挑戦しました。（関連記事：p9）
- b 移動図書館秋期巡回（後志・胆振 9月17日～20日）
後志・胆振地区の秋期巡回に当課の原が同乗し、研究協議会のなかで参考調査課のPRを、また、京極町・豊浦町の運営相談にも参加しました。

札幌市図書館職員（非常勤職員図書館専門員）派遣研修で当館職員と意見交換

9月5日に札幌市図書館および区民センター図書室担当者13名が当館を訪問。施設見学の後、参考調査課のレファレンスの流れについて説明を行いました。また、奉仕部3課長、北方資料室長、市町村支援課長出席による懇談を行いました。

道民ホール展（11月4日～7日）準備快調

テーマ名は「戦後が“若かった”ころ」。当課の原もスタッフの一員です。ぜひ、道民ホール（道庁1Fロビー）へお運びください。

＜お願い FAX番号は正確に！＞

最近、貸借申込み FAX送信で番号間違いが増えているそうです。個人宅や図書館から苦情が出ています。FAXを送る際は、もう一度番号を確認しましょう。

十勝沖地震、御地はどんな具合で
したでしょうか。被災地の皆様には
心からお見舞い申し上げます。

編集後記

§ しばらく暑かったのが、急に寒くなった今日この頃、みなさんどうお過ごしでしょうか。見た目より虚弱体質の私に「風邪をひくな」という課員からの絶対命令が。努力します…。(On)

§ 先日、テレビで「懐かしのメロディ」を何気なく観ていたら、確実に歌える歌が多くなってきていて愕然としました。この知識はレファレンスには役立つかもしれませんが…なんとなく嫌な気持ちです。
(KUWA)

おしょもつどうしんにつき

§ 『御書物 同心 日記』(出久根達郎著 講談社 1999)は、実在した徳川幕府紅葉山文庫の若き御書物方同心が主人公。我らの同業者です。明るくもまじめな徒の青春群像を描いた時代小説。書物の保存に腐心するところや、役人生活もよく見えてなかなかおもしろいです。灯火の読書に推薦！したい。
過日、六本木ヒルズライブラリー(入場料 ¥1000)を覗いてきました。紅葉山文庫⇌六本木ヒルズ?(み)

§ 3年ぶりに移動図書館車による後志・胆振地域の巡回に同乗しました。研究協議会では参考調査課の仕事について簡単な PR をしました。参加町村からのレファレンス依頼が増えると良いなぁと願っています。
(H)

§ 『Do-Re』記事執筆デビューしました。「×切にキビシイ編集長」ってほんとにいるんですね…。笑顔で「○日までにね」なんて言われると、守らないわけにはいかないです。それにしても、読者に伝わる文章を書くというのは本当に難しいですね。(I)

§ 今回は、由仁町の佐々木さんにお忙しい中、快く原稿を引き受けていただきました。利用者の笑顔、本当に嬉しいですね。(小見出しは編集部の独断でつけました。) 実習生の作った、レファレンスの PR リーフレットには、「笑顔でお待ちしています」という言葉がいくつかありました。かくありたいと思いつつ、現実のリーフレットにはなかなか書ききれないのが辛いところです。(ひ)



Do - Re (どうれ) の由縁

“どうりつとしょかんレファレンス”の略から名付けました。
しかしながら“Do! Reference”とも
あるいは“どれどれレファレンス”からとの説もあります。

THE REFERENCE NEWSLETTER OF HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信 12 (通巻 16号)

発行年月日 平成 15 年 9 月 30 日

編 集 北海道立図書館参考調査課

発 行 北海道立図書館

〒069-0834 北海道江別市文京台東町41番地

Tel 011-386-8521 Fax 011-386-6906

ホームページ <http://www.dokyoi.pref.hokkaido.jp/hk-tosho/top.htm>
